

# つなげよう、常磐線！



## 創刊号

—常磐線 駒ヶ嶺・浜吉田間鉄道復旧工事情報—

不定期刊行 2014年7月発行  
JR東日本 常磐復興工事区

### 「つなげよう、常磐線」発刊に寄せて

JR常磐線の復旧工事は、本年1月からの準備工事を経て、5月より鉄道構造物の本体工事に着手いたしました。地権者の皆様をはじめ、地域の皆様、関係機関の方々のご協力をいただき、順調に工事が進められております。改めて深く感謝申し上げます。

今回の復旧工事は、約15kmという長い区間を約1年半という短時間で構造物をつくり上げ、その後、軌道及び電気工事を行って参りますが、この区間で一気に工事を進めていくという、大変難しい工事になります。

このたび、本体工事着手を機会に、復旧工事状況を随時お知らせしながら、地域の皆様からのご意見をお聞きし、より良い工事環境づくりに努め、安全第一で早期復旧につなげたいと考えております。今後ともよろしくお願い致します。



常磐復興工事区長  
石川 文雄

### 常磐線Topics！

#### ①お陰様で本体工事に着手！

常磐線復旧の主要構造物となる高架橋の杭工事を開始したことを受け、5月15日に新新地駅付近において、加藤町長、関係の皆様への工事説明ならびに報道公開を行いました。

公開した工事は、高架橋を支える杭を構築する作業で、鉄筋のかごを組み立て、クレーンで動かす作業を行うものです。

高架橋の杭は、新地町と山元町をあわせた全数で約700本あり、年内に終了する予定です。



#### ②埋蔵文化財調査の一般公開がありました！

6月15日に常磐線移設復旧工事に伴い宮城県で行っている埋蔵文化財調査の対象遺跡のひとつ「新中永窪遺跡」の一般公開が行われました。

この遺跡からは、奈良時代～平安時代初期(8世紀～9世紀初頭)の竪穴住居跡7軒、製鉄炉跡1基、須恵器や木炭を焼いた窯跡9基などが見つかかり、土器や鉄などの生産活動が盛んに行われた遺跡であることが分かりました。

また、それらの生産に携わった人々の住居や工房が隣接して見つかっており、古代の生産遺跡の様子を知る上でも大変貴重な発見となったそうです。



### 常磐線復旧工事の動き

#### 新地南工区(ユニオン建設)



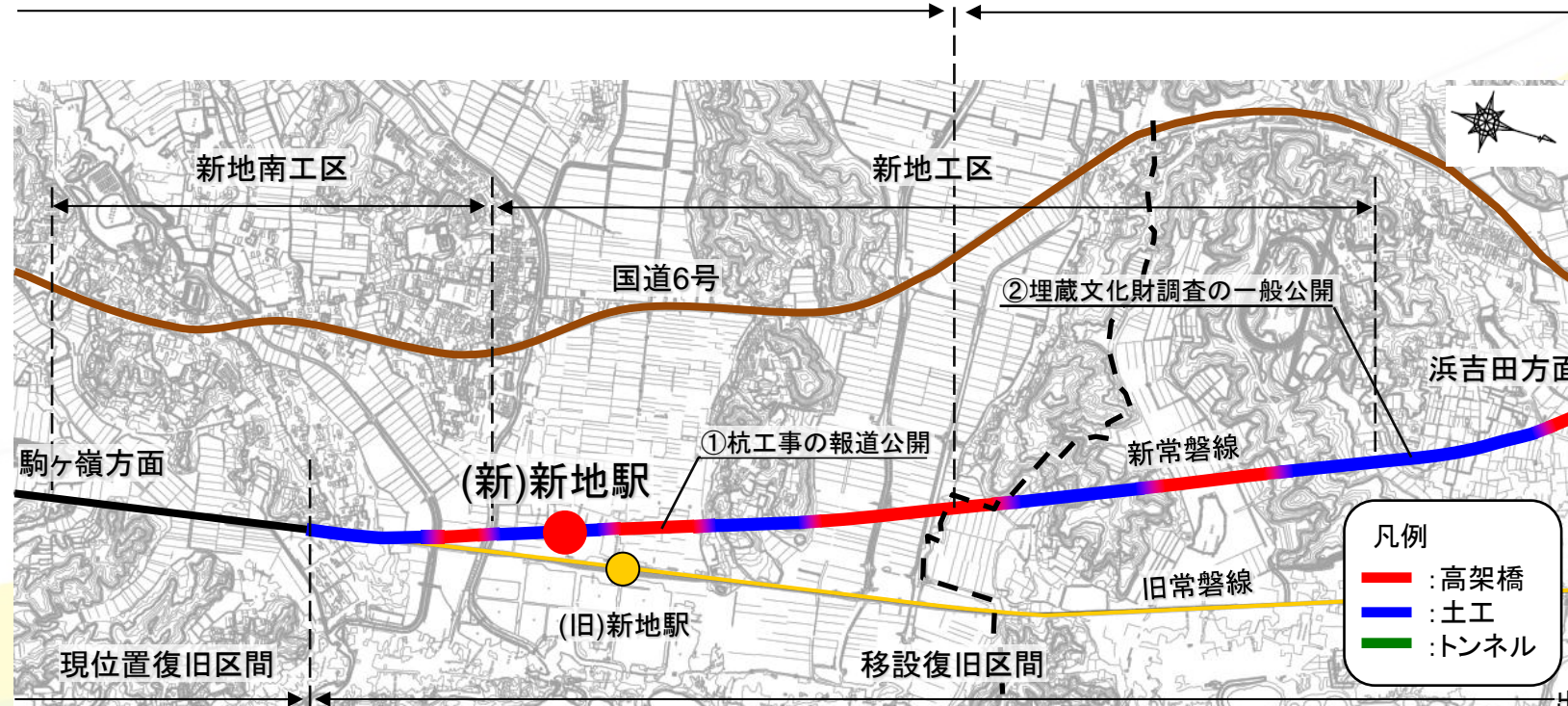
造成が完了した工事用通路

新地南工区では延長約1.8kmのうち、土構造区間が約1.6km、高架橋区間が約0.2kmとなっています。

写真は、作業のために工事用通路を作り終えたところです。

福島県

宮城県



#### 新地工区(大林組)



生コン車による高架橋杭の構築

新地工区では、報道公開で紹介された杭の工事を行っております。写真は、掘削した穴へコンクリートを流し込んでいるところです。

出展: 国土地理院